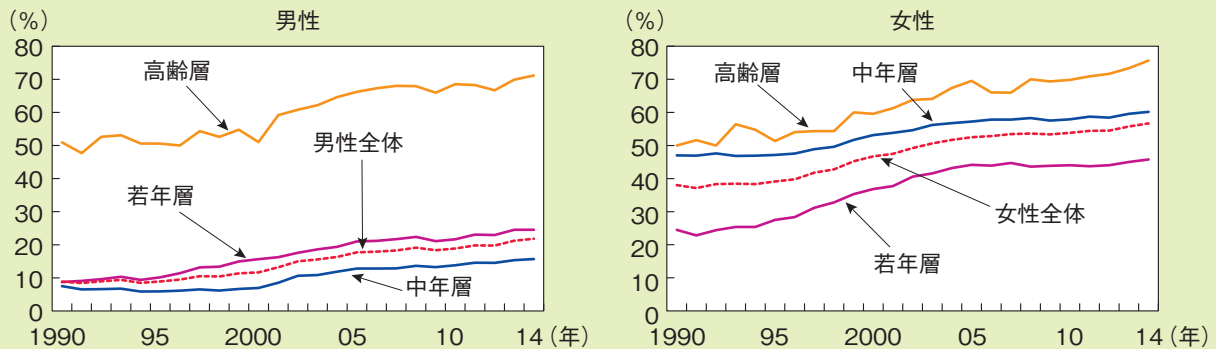


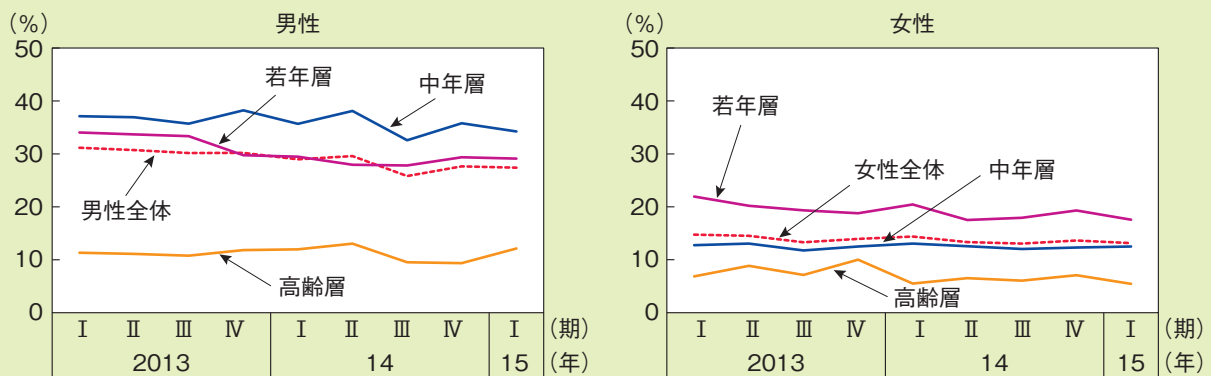
第2-1-4図 非正規雇用者の動向

最近では柔軟な働き方を希望する女性・高齢者によって非正規雇用が増加

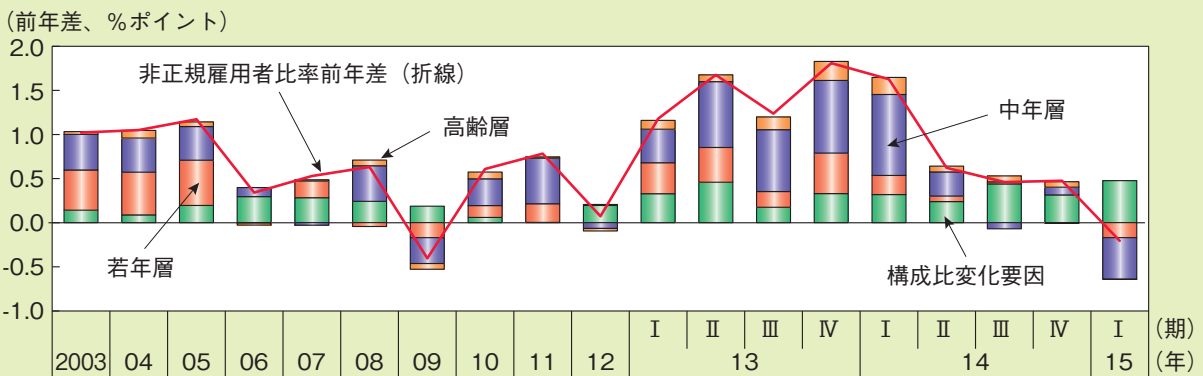
(1) 非正規雇用者比率



(2) 不本意非正規雇用者比率



(3) 非正規雇用者比率の前年差の要因分解



- (備考) 1. 総務省「労働力調査」により作成。
 2. 1990～2001年の非正規雇用者比率は、労働力調査特別調査に基づき算出。
 3. 若年層は15～34歳、中年層は35～64歳、高齢層は65歳以上を表す。
 4. 不本意非正規雇用者とは、現職の雇用形態（非正規雇用）についての主な理由を「正規の職員・従業員の仕事がないから」と回答した者のこと。
 5. (3)の要因分解は次の式による。階層は、男女別に若年層、中年層、高齢層に区分した。

$$\frac{N_{i,t+1}}{E_{i,t+1}} - \frac{N_{i,t}}{E_{i,t}} = \underbrace{\sum \left[\frac{N_{i,t+1}}{E_{i,t+1}} - \frac{N_{i,t}}{E_{i,t}} \right] \frac{1}{2} \left(\frac{E_{i,t+1}}{E_{i,t+1}} + \frac{E_{i,t}}{E_{i,t}} \right)}_{\text{階層内変化要因}} + \underbrace{\left(\frac{E_{i,t+1}}{E_{i,t+1}} - \frac{E_{i,t}}{E_{i,t}} \right) \frac{1}{2} \left(\frac{N_{i,t+1}}{E_{i,t+1}} + \frac{N_{i,t}}{E_{i,t}} \right)}_{\text{構成比変化要因}}$$

非正規雇用者比率前年差 階層内変化要因 構成比変化要因

E ：役員を除く雇用者、 N ：非正規雇用者、 i ：性別・年齢階層

6. 構成比変化要因の内訳については、付図2-4参照。